

太陽光自家発電の普及を目指し ブラジル最大規模の信用組合グループに融資



シクレディグループの支援により太陽光発電システムを導入した小売店。

2020年3月31日、JICAはブラジルの信用組合連合であるSICREDI（シクレディ）グループとの間で「分散型太陽光発電システム導入事業」のための融資契約を締結した。シティブンク、エヌ・エイとの協調により、JICAは最大1億米ドルを融資する。ブラジルは電力の約6割を水力発電に依存しており、干ばつや熱波の発生時に電力供給が不安定になるおそれがある。気候変動の影響が増すなか、ブラジル政府は水力を含む大型発電所のみに頼らない自家発電を推進。なかでも太陽光発電は、法整備や初期費用の低下によって近年急速に導入が進んでいる。しかし、農村地域では発電設備を購入するための資金調達の難しさから普及が遅れている。シクレディは農村地域に広い組織網を持ち、16年から太陽光発電導入のための小口融資を行ってきた。JICAはシクレディの事業拡大に協力し、ブラジルの電力供給の安定化と気候変動対策の推進に貢献する。

*海外投資事業。詳しくは34ページ「教えて！外務省」を参照。

ニュース深掘り！ “町の信金さん”と手を取り合って

地方を舞台にクリーンなエネルギーで電力の安定化に貢献する今回の事業は、広い組織網を持つシクレディだからこそ実現できること。今回芽生えたシクレディとのつながりを大切にして、ブラジルの農村地域の人々が電力以外の分野の支援を必要とするときにも、連携していきたいです。

シクレディはJICAの「信頼で世界をつなぐ」とも通じる、「ともに助け合う」という理念を掲げておりシンパシーを感じます。私が訪れた信用組合では、組合員に向けた太陽光発電の現況や法制度についての勉強会を開催するなど、地域全体で豊かになるという現地の人々の姿勢を強く感じました。

民間の金融機関ではないJICAは、開発課題解決に貢献する途上国の企業にも長期かつ低利子の資金を提供できるという強みがあります。シクレディの事業は、気候変動対策や小規模農家の生計向上に取り組みJICAの方針とも一致するため、今回支援を行うことになりました。

ブラジルでも広がりを見せる太陽光発電。しかし、導入にかかる費用は、都市部に比べて所得の低い農村地域の人々にとってはまだまだ高額で、融資の後押しが必要。シクレディはこうしたニーズを持つ組合員に向けた融資を行っており、さらなる事業拡大のために、安定的に資金を供給してくれるパートナーを探していました。

民間連携事業部
小暮倫子さん
こぐれ・みちこ

新卒で民間金融機関に勤めた後、海外の大学院で国際協力学の修士号を取得し、民間企業で官民連携の業務に携わる。2018年にJICA入構。ラテンアメリカ・カリブ地域への海外投資融資事業を担当する。



JICA HEADLINE NEWS

5月19日 | ▶ 課題は世界共通、子どもたちの学びを守ろう

新型コロナウイルスの影響で、各国で広がるオンラインを通じた学習。そこには、日本や民間企業の協力が。

5月8日 | ▶ マダガスカルで広がる「手洗いソング」

海外協力隊員と現地人気歌手が制作した楽曲が感染症予防にひと役買う。

4月30日 | ▶ インドネシア「カカオ輸出促進・小規模農家支援」に融資

小規模農家への支援でカカオ産業のバリューチェーン*を強化。

* 流通の各段階で生み出されるモノやサービスなどの付加価値（バリュー）を連鎖でとらえる見方。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>